

# ☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会にゅ〜す♪

2010年6月30日発行 No.15

## 薬害オンブズパーソン会議主催シンポジウムに行ってきました♡

### \*医薬品の安全性と製薬企業のマーケティング\*

6/5(土)田町の会場はたくさんの立ち見(立ち聞き)がでるほど大盛況でした。見知った薬剤師、どこかで見た有名な人、英語ペラペラの元商社の人、日本の薬に危機感をいだいているお母さん・いろいろな方々が集い合いました。

#### 第一部 基調講演

デービッド・ヒーリー氏とデレリー・マンギン氏による講演

☆ヒーリー氏～薬に製品特許が与えられ企業は医薬品により巨大な利益を得ることが可能となった。しかし、それは救命的な薬というよりパキルの様なライフスタイルに関わる薬から生み出されている。今や、病気を治すのに必要な薬をつくるのではなく、病気をつくって薬は売られている。パブリッシュされるのは肯定的結果の試験だけ、否定的なものは闇に葬られ、危険性は隠ぺいされていく。企業の宣伝活動費は膨大で、利益相反が横行している。臨床家はそれに麻痺し、セミナーの懇切丁寧な製品紹介にうなずく。今何がおこっているのか、患者の一番近くにいる臨床家が、真の医療を見極め、それに忍耐強く変換していかなくてはならない。

☆マンギン氏～妊婦へのSSRI投与は安全なのか?パキルの妊婦への投与が科学的根拠の裏付けがないまま安全と推奨されている。心奇形など先天異常が動物実験、大規模コホート試験、疫学研究で明らかであるのに…。妊婦のうつ症状に、救世主のように紹介される薬・巧妙な企業宣伝の実態が報告された。「心の健康をとるか、健全な赤ちゃんをとるかの選択は難しいが、この薬の危険性がわかっているならば、別の治療の選択を考えるとと思う」この言葉は、当然が当然でない現状をあらわしている。

☆次号では第二部、三部と参加者の感想をたっぷり載せたいと思います。

☆当日の資料、スライドは、薬害オンブズパーソン会議のホームページで見られます。

## 8月24日《薬害根絶デー》

1999年8月24日薬害エイズ事件の反省をふまえ、厚生省は再発防止を決意して「誓いの碑」を庁舎正面中庭に建立しました。翌年から、この8月24日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。

「誓いの碑」には、『命の尊さを心に刻み、判ドマド、メン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに誓う』と刻まれています。

これまでの薬害被害、判ドマド、メンは薬事法を改定し、薬による被害救済制度をつくりました。薬害エイズ、薬害ヤコブ事件では、被害救済対象に血液製剤を追加し、使用加減の保存期間を2倍の20年に、医薬品以外の医療材料まで監視の枠が広がりました。薬害被害をきちんと解決することで、安全安心の医療を勝ち取ってきたと言えるでしょう。

しかし、「薬害根絶デーって?」という人が多くなっています。8月24日厚労省前のイベントで「誓いの碑」を知る人も少なくないと思います。まして医療現場は、そのイベントを見ることもなく、日常業務に追われています。

薬害問題に触れた先輩の話の聞いたり、薬害被害者の体験を見聞きしたり、自ら学習しなければ「薬害根絶デー」さえ知らないのが現状です。

イベントに参加は無理だけど、窓口で、ベッドサイドで、パソコン正面で「今日は薬害根絶デーだなあ」…と思って働く仲間が増えることが望みです。

<8月24日は>

・11:45～リレートーク・13:00～「誓いの碑」前行動・13:30～パレード・15:00～集会(弁護士会館外)・17:30～街頭宣伝とイベントを予定しています。

### ☆署名のお願い☆

『抗がん剤副作用死亡と医薬品副作用による胎児死亡について 被害救済制度の創立を求める請願』にご協力ください♪

このニュースを読んでもくれること、その内容を身近な人に伝えてくれることが薬害根絶の大きな力になっています。